美濃市にドローン博物館

100台超展示、オープン

展示のドローンに見入る親子＝13日、美濃市曽代、ドローンミュージアム＆パークみの

美濃市曽代の市運動公園内に13日、小型無人機ドローンの博物館「ドローンミュージアム&パークみの」がオープンした。各種ドローン事業やスクール運営を手掛けるROBOZ（ロボッツ、恵那市上矢作町）がドローンの普及を図ろうと開設。同社所有の100台以上を展示するほか訓練場も備え、ドローンの魅力を発信する。

博物館は、研修施設として利用されてきた市の旧勤労青少年ホームを活用。同社が市から購入し、一部改装した。10月に郡上市美並町にあった支社も博物館に移転。市とは、幅広い分野でドローン技術を活用する連携協定も締結している。

施設は延べ床面積約3300平方メートル。ドローンの展示スペース、組み立てや修理ができる工房、屋内の飛行練習場を備えた。展示スペースには重さ20グラムほどの手のひらサイズから、10キロ以上の産業用まで大小さまざまなドローンが集結。空撮、農業、レーシングなど分野別に並び、1990年に販売された世界最古の日本製ドローン、3センチ四方の極小ドローンも展示。ショップも併設する。

施設に隣接する市民プールは、飛行訓練場として活用。空中だけでなく、水中ドローンの操作訓練もできる。今後は体験教室なども開く。

同社によると国内で現存するドローンをテーマにした唯一の博物館という。13日はオープニングイベントがあり、武藤鉄弘市長ら関係者がテープカットを行ったほか、大勢の親子連れでにぎわった。

石田宏樹社長（47）は「一般の人にもドローンの楽しさを知ってもらえる場にしたい。美濃から新しいドローン技術を発信していきたい」と話した。（佐名妙予）

無断複製・転載を禁じます